拝啓

[illegible]

明治　年　月　日

（北村紙店製）

[illegible]

日本俳人全勝[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治廿八年　七月　一　日

（北村紙店製）

[illegible]

剣南先生、新著「理趣」「情趣」の巻尾に附す。[illegible]

[illegible]

「理趣」は元が文藝評論を集めたるものと。来書

[illegible]

[illegible]

明治廿八年七月一日

阿田大兄　小伯

印東氏ハ先ニ小生ハ大正川の印度ニ

他仏印ニ

(北村紙店製)

明治　年　月　日

劍南先兄、新著「理趣と情趣の巻尾ニ附す」ハ小生ハ一言を微せり。

同、「理趣」ハ兄か文藝評論を集めたるなり。来書ニ曰、小弟の言論ハ直覚より割出したる演繹ニ

拠る、その見ハ綜合ニ傾き、その説ハ一意到つて筆随ニ任ス。毎ル言つて尽さゝる所あり候、常ニ社会ニ時代ニ

ヒを見て、純なる文藝の範囲内のみを剖析批

(北村紙店製)

明治　年　月　日

評をなすを僅ニ一部に止まるとハ事門的ニあり、小弟の

職分ハ文藝と社会との調和者媒介者ニ努めたり

い信ス居リ、小弟ハ自家の地位を知ると信ス、また自

家か所なく不肖なれ共、不肖なれ共甚だ厚

ると信ス居リ」と。兄自ら知る。生涯ハ蹉跎。

往年「緑陰と老僕と我の文を国民新聞紙上に掲

ゲ、兄の性情趣味の一斑を窺ふ。兄の名字

ハ生るゝゆゝしきもの。一生未だ十数年、

(北村紙店製)

明治　年　月　日

兄か亦愛ある生涯の庭にあり、生の愛を帰す、兄ハ

ニ浪華ニ来り、旅信時ニ面ハ通ハ来り、強ひて来り、

歓を共ニ得たり毛尾、情緒依しくも甚だ素

うたるものあるを覚ゆ。生の愛徳ハ兄の七絃あり、

中年漸迫ハ情深、遺跡迷途ハ仏門深、

大阪市外、下三番
角田鄭一印

明治　年　月　日

(北村紙店製)

[illegible]
[illegible]信「屋」とは。兄自身知る。生実に羨む。
往年「緑陰」老僕「我」の文を国民新聞に掲ぐ、兄の性情趣味の一斑を窺ふ。兄の名字は生まれゆかしきもの、[illegible]。而して十数年、

明治　年　月　日

(北村紙店製)

兄が亦豪なる生涯の底にあり、生の言を伺ふ、兄去つて浪華に赴く。唯信時を通ずる、驚んで来る一文の驚を投ず。偶々を毛氏、情緒依々、其の嘉意うたるものあるを覚ゆ。生の愛誦する兄の七絃あり、只、
中年渝迹世情深、覚路迷途任徊徨、
永夜不眠書院裏、一燈照出古人心。
浪華懐古人雲の如し。知る此境想游者多し。此句を誦する毎に、生は琴瑟、又兄が一花の

明治　年　月　日

(北村紙店製)

馨香を撲ぐ人世多し。黄河を徙すこと幸い。
[illegible]言を陳ずを喜ぶ所。

明治廿八年春　日　蘆花生謹識

明治　年　月　日

（北村紙店製）

明治廿七年　月　日

（北村紙店製）

大阪市外下三番

角田藤一郎様

東京市麻布区

[illegible]

（新橋北村製）

珍味年代五の戦の理趣情緒共に大なり
香容を採する如く嬉しく覚え候
為に我等の要文を読んで大見の古き等を
すく和歌は新案は更に更は古井
小松新は筆意新の年中に身を勤め
候地ぬくもるは一年二年の事ではない此の
古色さや静寂さや懐かしの花を生けし
何気無き搆へなる傷むへからずや山と樹木は
皆ことごとく其奉了を一郎をして在宅の定
まさ此所の重山は勤勉出役樹木と

(新橋北村製)

の赤土は傷付き易く揮せりと樹木は家して
思ひ儘にも借の金を樹木と加工して拙き前庭後
園是は不似合のマシャ椛、百日紅、厚朴、桜木
ダリヤ女郎花を植へ置きしは厳寒何の為か厳
月を思はしめ出来居る庭園の要樹植て
風景は美しく或は別郷の中の風情小庭をつくらむ
床前日は時代に若しき要件と花とを庭の樹
は樹の操の重きなる圓の樹は郷の樹の操
し流石に松合ありなるかな
如来不此年の秋以来足の女に養ひつゝ中小

(新橋北村製)

名は龍、千歳村には羽根の名もありし当月二
年と十ヶ月と和歳小東京四千時代は病身の
若き頃九郎と居りしが父来年あまり田園
生活を見る書に健全な成長に四十には路
は六十丁を一寸半足らず途中海の出いたりして
千歳を去る事大谷の山迄ートウキせや。此所来
ありて其中小家も御蔭で大分賑やかの
際に郵便近きと鉄道は移り栽培は家の
様に同じ隣村五十年には農家の
古き院を留め取りしには又更に中小八畳

(新橋北村製)

二六四畳居椅子芽るて田畑って厚く茸きし母
居との連絡は飛んでみけに最早九合九尾也

[illegible]と同じく同[illegible]村にて廿五年にして農家の
土蔵院を留守取りては[illegible]を庭と中に八畳

二つ目の畳屋根茅葺にして風切つて厚く萱を以て母
屋との連絡は飛石づたひに最早九分九厘出
来去九月廿日新築へ移し此年秋も其
六畳北向の障子の前にて認めし所に
畳には大工が襖のタテツケを直し居る此は特別
客室のつもり大工某師苦心の節にて
[illegible]所未[illegible]なれば小生は目下あまり自然付
く[illegible]うち妙な事に[illegible]あり人さへ此秋物
故生前の物に[illegible]其遺物を出して[illegible]
遺物と云つても[illegible]料の事にて先づは[illegible]書き

直了様未[illegible]茅葺かた図之より[illegible]着にでも
云ひやうなき[illegible]人を迎へて失望して面白きも
の無かりし人をは荷をさへし此九月か一周忌に当
りし間其遺を集めと存じ候[illegible]著書諸か
[illegible]未亡半にしてあるかぬのかと[illegible]住之候出
書の上は隠遁[illegible]下ずしに家に畑の方は何とも思
と其書之積[illegible]時は[illegible]萌[illegible]植えて中
[illegible]出て来て野菜つくりもするは[illegible]
[illegible]流地味の[illegible]肥料の[illegible]骨の事
世なみの事もありて一反[illegible]や甘藷や胡瓜の

数は[illegible]西洋野菜等は[illegible]出来
申さず果樹も三四尺[illegible]花さき[illegible]
[illegible]以外[illegible]今年柿は肥へて果実か出
来[illegible]珍しく[illegible]東京[illegible]送り[illegible]月
[illegible]度[illegible]一二度は出[illegible]中小大抵は日帰
りに[illegible]近[illegible]かゝる[illegible]時と
は[illegible]に
還暦前の[illegible]住つて[illegible]山の[illegible]思ひ
申し
いつ[illegible]せ[illegible]へは草の庵かし

[illegible]も野原なりけり

形高の砂しく都成て東京に多く時に月
曲五度ばかり時に一二度は出て甲斐に大抵は日帰
りに東京を過ぎ別荘なるよりかまくに行く時と
は比較にならず
過日熱海に行き箱根の松尾つゝ蓬山の麓を見て
下る
いとゝ家せばくは草の庵なり

いとゝ山もとの野原ありけり
草の庵に露の身を宿すと言ふ人猿子の
今の外まも知ずけれ小かも可笑しきまに山雀
三寸の千歳杉千歳杉と信仰多く色合の不
良出来野の村の山の村が苦しくもう
なり所少の流の表一山つなり原始林中草
芝を生ずる垂直の野あり富士
の野の如なり一望遠の奥に幻る出れ
り所に聚てを知ぬ山信仰笑ひ下るまでに
命戦慄も聚けれ手初る飽く千歳杉

此原茶とあるを長くてあるを聞歌を下
天満宮の御神輿の前庭
本年東京毎年病院今年一度も
本年祭不在
青山青の千石冨
徳冨花
角田大兄
侍

(製付北橋新)

大阪市東区
大手通一の三三
角田勤二郎様

北原様ニあらせられて　あらせられ　爾後
天皇陛下御御稱　御慶
年末年始　皆様　謹賀新年
青山南の千石宮
徳冨花

角田大兄

（新橋北村製）

大阪市西区
大手通一の三三
角田勤一郎様

東京市千歳
徳冨花